2. これからの望ましい「"とちぎ"の姿」

県民が望む郷土"とちぎ"の将来イメージを把握するものである。

全体でみると、「お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」を選択した割合が 47.3%と最も高く、次いで「森や川や身近な環境を大切にする地域」(39.4%)、「地域社会の人々みんなが助け合っていける地域」(36.9%)、「安心して子どもを産み育てていくことができる地域」(35.9%)となっている。

男女別で、大きな差異は見られない。

年代別では、20~30 歳代の半数以上が「安心して子どもを産み育てていくことができる地域」を選択している。また、60歳代以上の半数以上が「お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」を選択したほか、「地域社会の人々みんなが助け合っていける地域」も他の年代に比べて高い。







